



自由競争で自由がなくなる？

## 真の自由競争とは

東日本大震災の復旧工事において、職人や作業員の不足が大きな問題になっています。以前から機会あるごとに僭越ながら「作れなくなる」と警鐘を鳴らしてきましたが、現実になってしまいました。

自由競争という名の下で、安値受注する元請建設会社が不当に買い叩くため、職人をはじめ建設工事に従事する人が減ってしまったのです。特に型枠大工、鉄筋工などの不足が顕著です。このままでいくと「職人」という言葉自体が死語になります。

日本建設大工工事業協会宮城支部が2010年に行ったアンケートによると2009年に1,568人いた型枠大工は2010年に1,202人で、1年で366人減ったのです。同協会が行ったアンケートによると、型枠大工の年齢構成は50歳代28%、60歳代16%、70歳代1%で、しかも新規入職者が大幅に減少しているため、あと10年もすれば型枠大工は激減すると予想されます。

国交省の発表した『平成24年度公共工事設計労務単価』を見ると、例えば普通作業員の最低価格は鳥取県の10,800円です。(ちなみに最高額は神奈川県の高14,400円) これはピーク時の平成9年15,800円の68%です。東北大震災の被災県では特需により単価が上昇していますが、他はどこも似たような下落率です。全体的に高いのは千葉県、東京都、神奈川県などの首都圏で、安いのは北海道、青森県、長崎県などです。元請の価格競争のしわ寄せが下請けや専門工事会社に及び、重層下請け構造が形成され、保険未加入業者が増えるなどの弊害がでてくるのです。

公共工事で採用されている価格のほとんどが市場価格調査によりますが、今日のような結果を招いたのは『自由な競争』の結果が原因ではないでしょうか。

これは労務単価だけでなく建設資材の設計価格についても同じです。当社のような『材料屋』も原価は上がっても、仕事量(パイ)が減れば買い叩かれ、価格は下がり気味です。

国交省や県もこの問題に対応するため、検討会の設置や調査を行っているようですが、正確な実態の把握や適切な具体策が十分ではないように思うのは私だけでしょうか。

数少ない業界の理解者である自民党の脇雅史参議院議員は「市場価格を調査する現在の方法は、デフレ下では有効に機能しない。現状に合っていないならば法律を変えるべきだ」と言っています。

このような現状が1日も早く変わることを心より願います。

(日経コンストラクション2011.3.28参照)





## 会計検査こぼれ話

今月も、『公共工事と会計検査』の改訂8版より「会計検査 Q&A」をご紹介します。  
一息ついて読んでいただければ幸いです(^-^)/

著者の市川 啓次郎 (いちかわ けいじろう)氏 は 昭和 19 年生まれ。  
元会計検査院 国土交通統括検査室長を務め、現在は財団法人経済調査会の技術顧問としてご活躍中です。

### 今月の質問：高価でも再生砂を使用？

#### 質問

会計検査報告において管路敷設工事などの埋戻しに使用する砂については、新品の砂ではなく再生砂を使用するよう指摘しているが、当地方では再生砂を生産するプラントが遠いため、再生砂の方が新品の砂より高価になる。それでも管路などの埋戻しについては再生砂を使用しなければいけないのか？



#### 回答

平成 18 年度検査報告において、管路敷設工事の埋戻しについては再生砂を使用するよう指摘しています。

かつて、会計検査院は道路の路盤材における再生碎石の利用状況を調査し、直轄事業に比べ補助事業において再生碎石をもっと活用するようにと指摘したことがあります。今回はそれに続く第 2 弾です。

そして、今回の指摘の特徴は、単に経済性の観点からだけではなく、環境面についても言及していることです。そのことから、ご質問のようにたとえ高価となっても再生砂を使うべきなのかと受け止められているのかと思います。

しかし、指摘は、新砂に比べ再生砂が安価に入手できる地区においてこれが十分活用されていない状況を問題にし、こうした地区では早急に再生砂を活用するように改善すべきとしているのです。

その上再生砂の利用が現状のままでは経済的にならない地区については、地方自治体などの事業主体が、率先して、設計図書等に再生砂を利用することと明示することが必要としているのです。国交省等直轄事業では、こうした再生資材名を設計図書等に記載することとなっています。

こうしたことによって、現在、需要が少ないために再生砂を製造していない再資源化施設においても再生砂の製造設備の整備が図られ、再生砂の供給量が増大するとともに再生砂が経済的になり、利用の促進が図られることが見込まれるとしています。経済面からだけでなく、環境への負荷を考慮し、こうした取り組みを急ぐべきとしています。

したがって、現時点では再生砂の方が高価な地区でまでその使用を求めているものではありません。



レオ

ちゃんの製品紹介コーナー



## ◆◆◆◆ Eウォール ◆◆◆◆

NETIS SK-030002-V

こんにちは！ライオン通信のレオちゃんです♪



今月は施工性に優れた、自立式大型積みブロック『Eウォール』のご紹介です。  
Eウォールは「道路土工、擁壁工指針」（平成11年3月）に準拠しています。  
ぜひご検討ください！



## 特長

- 表面の模様は自然景観にもよくなじむ石模様です
- 前面の勾配は製品を吊り上げた状態でほぼ、5分(1:0.5)となります
- 製品は箱型(中空)断面であるため、胴込め(中詰め)コンクリートとの一体化がはかれ、強固な擁壁が構築できます
- 擁壁高さに応じた800、1250、1500、2000タイプがあり、壁高の高い擁壁にも対応可能です
- 標準品(基本:A)は製品長さ2mであり、曲線施工用に製品長さ1mの端部:Bもあります

## 施工要領

## 1 基礎工

基礎コンクリートを打設する。

## 2 1段目の据付け

ブロックをクレーンで吊り上げ、基礎コンクリート上に据付ける。

## 3 1段目の胴・裏込めコンクリートの施工

1段目の据付けを終了した後、地盤高までコンクリートを打設する。  
ブロックの前面は、良質土で埋戻す。

## 4 1段目の胴込めコンクリート、裏込め材の施工

裏込め材を充填した後、胴込めコンクリートをブロックの上面より  
20cm程度下げた位置まで打設する。

## 5 2段目の据付け

2段目のブロックを据付ける。  
転倒防止のため、上下ブロックをU型鉄筋にて仮止めする。

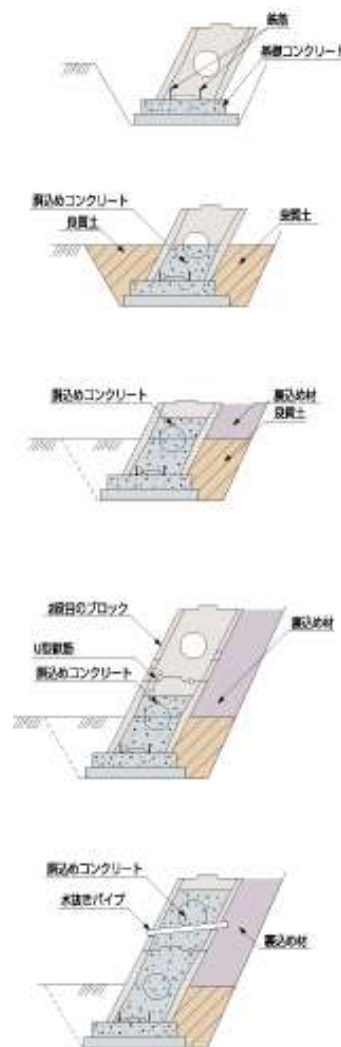
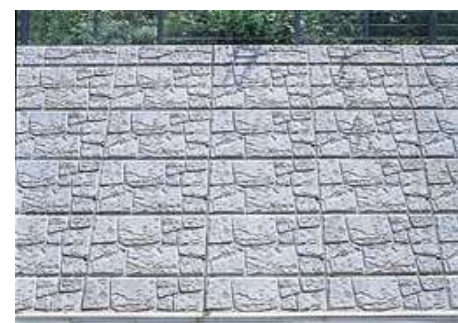
## 6 2段目の胴・裏込めコンクリート、裏込め材の施工

水抜きパイプを設置し、裏込め材を充填した後、ブロック上面より  
20cm程度下げた位置までコンクリートを打設する。

## 7 天端コンクリートの打設

3段目以降も同様の施工を繰り返し、  
所定の段数まで施工が終わったら、  
天端コンクリートを施工する。

## 8 完成



現場 1



施工中



現場 2

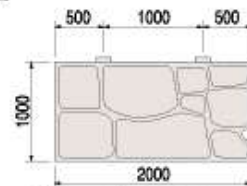


両現場とも、八頭郡若桜町の八東川河川災害復旧工事現場です。  
現場 2 では、車道の一部も災害により壊され、近隣住民の生活道路を奪いました。  
施工の早いEウォールにより、現在は天端まで施工完了、素早い道路の復旧へと繋がっています。

規格寸法図

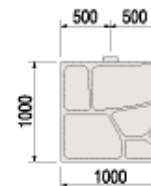
基本：A

正面図



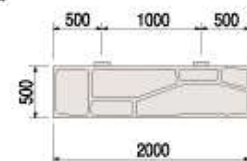
端部：B

正面図



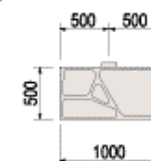
端部：C

正面図



端部：D

正面図



800・1000タイプ

側面図



1250タイプ

側面図



1500タイプ

側面図



2000タイプ

側面図



●この製品は日本興業株式会社さまのご協力をいただいております。



美しく豊かな環境づくりに貢献する  
日本興業株式会社

<http://www.nihon-kogyo.co.jp/>



◆製品に関するお問い合わせ☆資料請求は

直通電話：0858-73-0500

までお気軽にどうぞ！

FAX : 0858-73-0535

E-mail : [info@kooge.jp](mailto:info@kooge.jp)

◆ ◆ ◆ 編集後記 ◆ ◆ ◆

先月、全国PCa創造開発交流会の視察でミャンマーに行ってきました。インフラ整備もこれからという状態ですが、今後は民主化が進むだろうということで、安い労賃を目的に世界中が進出しようとして狙っているのです。

一流企業は後進国の安い労賃のみを求めて、同業社よりも早く進出することを競っていますが、ローテクである私どものコンクリート製品などを除いては、国内では『製造業』が無くなってしまうのではないかと思います。  
(山根)



<URL> <http://www.kooge.jp/>

<e-mail> [info@kooge.jp](mailto:info@kooge.jp)